

2025/4/30 (水)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 5章 14-15節 (新約聖書 6頁)

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、灯をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家にあるすべてのものを照らすのである。

灯火

「あなたがた」とは山に登られたイエスの話を聞いている弟子たちのことです。聞くというのは言葉を聞くだけでなく、イエスの言葉を聞き「行い」が伴うことです。イエスは「あなたがたは世の光である」と言われました。でもこれはイエスの言葉を聞いて道徳的に立派な行いをするという意味ではありません。

今はお読みしませんが、他の福音書にイエスが生まれつき目の見えない人を癒やした話があります。すると弟子たちが「先生、この人が生まれつき目が見えないのは、誰か罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか」と尋ねました。当時、心身に病気があると、誰かの罪に対する神の罰だと考えられていたからです。

そこでイエスは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と言われました。わたしたちも身体の具合が悪く、回復が難しいと、自分自身を責めたり家族に当たったりすることがあります。しかしイエスは「神の業が現れるためである」と言っています。

この神の業とは「神の栄光」という意味があります。多くの人は神の栄光は神ご自身が光を放つというイメージを持つでしょう。しかしそれは違います。むしろ逆です。神ご自身は世の闇に來られました。そして罪に苦しむ者の苦しみを自ら負う姿を十字架で現しました。それがありのままの私たちを赦し、共にいておられるという祈りとなりました。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは十字架にかかり私たちの罪を負ってくださいました。あなたの赦しと愛に気づかされ、世の光とされて、喜びと感謝を献げます。どうか今、様々な理由で心身に痛みと苦しみを覚える人々にいやしのみ手を伸ばしてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン